

# 白鷗大学教職支援センター Center News

Center for Cooperative Research and Development in School Education.  
Faculty of Teaching Support, Hakuoh University.

第3号  
(2025年3月31日発行)

## 第3号の発行にあたり

白鷗大学教職支援センターは、教員を目指す本学学生はもちろんのこと、教育に携わる方や関心のある方々に、総合的な教育支援を行い、教育現場をより一層活性化すべく、教員養成や教育臨床に関わる総合センターとして令和4年4月に設置されました。

組織としては、教育実習事前事後学習のコーディネートをしなが、本実習に生きる事前事後学習の内容や実習生の成長を支える教育実習運営の在り方等の充実を図る「実習指導部門」(部門長 森好紳准教授)、在学中から教職に就いた後までも、

継続的な教職キャリア支援の組織体制づくりや学修方法に関する相談・受付等、教師を目指す学生への総合的な支援体制の構築を推進する「教職支援部門」(部門長 大橋一樹教職支援室長)、そして、教職課程カリキュラムの管理・運営のための自己点検評価活動を行い、教員養成システムの検討や現職教員としての資質能力の向上等、様々な角度から学校教育支援を図る「教育課程開発部門」(部門長・副センター長 小川博士准教授) からなり、それぞれが、本学の特色を生かしつつ、学生や現場の先生方のニーズに応えるべく活動してきました。

本冊子は、本年度の活動の概要をまとめたものです。活動にご協力いただきました皆様にお礼申し上げますとともに、来年度に向けて活動の問題点や改善方策等につきましてご指摘いただければ幸いです。

教職支援センター長 上野 耕史



## 白鷗大学教職支援センター

〒323-8585 栃木県小山市大行寺1117番地  
E-mail : kyoshoku-center@ad.hakuoh.ac.jp  
U R L : <https://hakuoh.jp/kyoushoku-shien/>

## 目次

- 01 巻頭言：第3号の発行にあたり
- 02 報告：教員の育成につなげる教育実習に向けて
- 05 報告：公立学校教員採用支援の取組
- 06 報告：教職課程の自己点検・評価の取組
- 07 報告：学び続ける教師のための教員研修リレー講座

## ● 報 告

# 教員の育成につなげる教育実習に向けて

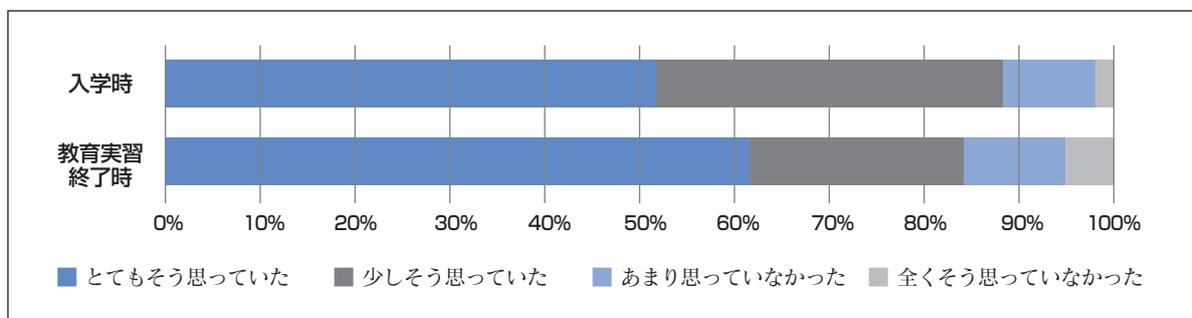
## 実習指導部門

本学の教育実習は、栃木県教育委員会をはじめとする各県市町村教育委員会との緊密な連携の下、例年300校以上の実習校と共に教育実習を実施している点が一番の特色です。今年度も22都道府県364校の協力を得て、充実した教育実習を実施することができました。ご協力いただきました学校・先生方・教育委員会等の皆様にお礼申し上げます。

### 【本年度の状況】

教育実習終了後のアンケート（3年次教育実習生対象 有効回答数165名）によると、図のように、大学入学時と比べて、教育実習終了時の、教員になりたいと「とても思っている」学生の割合は10%近く増えています。

図1 「学校の教員になりたい」と思う気持ちについて



同じアンケートの自由記述から、教職志望の上昇に関する内容を抽出すると、「実際に授業を行い、児童生徒が理解してくれたり成長したりする姿を見て、教員のやりがいを強く感じた」といった「やりがいの実感」、「教育実習を通じて、教員の仕事の楽しさや魅力を実感し、教員になりたいという気持ちが高まった」といった「現場の経験」、「児童生徒との交流やコミュニケーションを通じて、教えることの楽しさや児童生徒の成長を感じることができた」といった「児童生徒との関わり」、そして、「実習先の先生方の姿を見て、自分もそのような先生になりたいと感じた」といった「先生方の影響」などに整理できます。このことから、学校・教員という仕事の理解とともに、その道に進むという決断のための教育実習の重要性が確認できます。

一方、教職志望が低下した学生もいましたが、これに関する自由記述には、「勤務時間外の仕事量や保護者対応、職員会議など、教員の仕事の大変さを実感し、自信を喪失したり不安を感じたりした」といった「仕事の大変さ」や、「教育実習を通じて他の夢や目標が見つかり、そちらに注力するようになった」といった「他の夢の発見」、「子どもと接することに精神的な疲れを感じ、教員の仕事が自分に向いていないと感じた」といった「精神的な負担」などがありました。子どもが好きだけでは教員は続けることはできません。学校・教員の仕事全体を見た上で、自分が適しているかどうかという自己理解のためにも、教育実習が果たしている役割は大きなものがあると思われます。

### 【次年度に向けて】

教職の厳しさ・教員採用試験の倍率低下が問題視される中、本学では多くの学生が教師を目指し、教育実習を通じてその想いを確固たるものとしています。教育実習は学生たちにとって大きな学びの場となり、その経験は卒業研究や採用試験対策にも生かされています。

本学は、教育実習の学生支援を通じ、実習校で得た学びを発展させながら、地域社会に貢献できる教員の育成に努めています。この取り組みが、次世代の教育を支える基盤となることを願っております。

## 参考 教育実習に関する事前事後の学び：奥田順也先生ゼミナールの取組

### ○前期の演習の目的と概要

「教育実習での『学び』を注ぐための『器』を作る（基礎力を培う）」ことを目的とした。

概要について、まず、ゼミ生(10人程度)を、3～4人ずつのグループに分けた。次に、演習のテーマに対して、グループごとに活動内容を立案し、その活動を実施するための練習をした。そして、他のグループを児童役にして模擬演習を行った。演習後は、先生役児童役ともに1人ずつ振り返りをした。さらに、この振り返りやゼミの担当者からのフィードバックをもとに活動内容を再考し、模擬演習に「再挑戦」する（PDCAサイクル）、という演習を重ねた。なお、タイミングを見て、グループのメンバーを数回、総入れ替えした。

そして、前期のまとめとして、夏休みに「一人で45分間の模擬授業」を1人ずつ実施した。

### ○前期に行った演習内容の抜粋

主に以下に関する演習を、夏休みに実施する「一人で45分間の模擬授業」に向けて行った。

#### 演習内容(一部)

- ①基礎 礎：目的（ゴール）から計画を立てたり、活動内容を組み立てたりする方法
- ②基礎 礎：演習のための「練習」の徹底
- ③基礎 礎：「価値付け」の仕方
- ④基礎 礎：活動内での児童（役）との対話（発問と価値付けを含む対応の仕方）
- ⑤基礎 礎：「かくれんぼう」の実践
- ⑥基礎 礎：場面指導（児童に「遊び」と「ふざけ」の違いを伝える、など）
- ⑦基礎 礎：一指示一行動の実践（児童に遊びの「遊び方」を一から説明する、など）
- ⑧応 用：音楽の授業に関する場面演習（音取りや鑑賞の授業の演習、歌詞分析、など）
- ⑨その他：文章講座（ワンセンテンス・ワンメッセージ、文章の型、など）



模擬授業の様子

### ○夏休みに実施した「一人で45分間の模擬授業」の内容

- ・夏休みの間に、ゼミの担当者と音楽の模擬授業(45分間)の内容を数回検討した。
- ・授業案を立案し練習することを通して、教材研究を深めた。また、ワークシートの作成などの授業準備をした。
- ・45分間の模擬授業を1人で実施し、全員で振り返りを行った。

### ○実習後の振り返り

- ・教育実習終了後、前期のゼミでの学びを教育実習に生かすことができたか、実習で何が身に付いたかなどについて振り返りを行った。そして、その結果を全員で共有し、実習の成果を集大成である卒業研究につなげた。

## ■ 横森晴奈さんの振り返りの例

### ① 前期の演習を踏まえた振り返り

前期の演習で役に立ったこと	左欄の記述を踏まえて、実習を通してさらに磨きがかかったこと
発言の深堀の仕方 (聞き返し方)	私の予想と大きく外れた発言が児童から出た際に、「どうしてそのように考えたの?」と聞くことで、その児童がどのように考えたのかを把握した。そうすることで、その児童の考えを全体に共有しつつ、さらに、別の児童からの発言を活かして、授業の流れを軌道修正できた。
一指示一行動	「指示は端的に」ということを意識することができたこと。指示が通らなかった際には、落ち着いて「言い換えるね!」と伝えてから、分かるようにするなど、指示を出し直した。 しかし、まだまだ児童に100%伝わる指示は出せないなので、児童に伝わる端的な言い回しを日頃から考えていく。
「授業はゴールから考える」 こと	どの授業においてもゴール（最終的に児童に何が身に付いたらよいか）から考えたことで、見通してをもって授業に取り組めた。
笑顔の引き出し方	1年生の国語の授業では、自分たちが考えたことをペアで全体に発表してもらう際に、発表する人たちはもちろん、聞く人たちもその場面に合わせた気持ちで聞けるように声掛けをしたこと。結果、物語を楽しみながら学習することができた。

### ② ①以外の振り返り

①以外で、実習前に準備しておけばさらに良かったと思うこと
教育実習では、「くじらぐも」の単元を全て担当させていただいた。しかし、それまで単元全体を組み立てた経験がなかったため、授業づくりに試行錯誤した。この時、教育実習に行く前に、1つの単元を通した指導計画を作っておくべきだったと感じた。
①以外で、子どもたちを前にして授業をしたからこそ、学べたこと
学力など、児童によって様々な差があること。大学生を対象にした模擬授業ではあまり思わないが、実際の授業ではその差を感じた。したがって、ただ授業内容を考えるのではなく、活動内で差が生じた時の手立ても考えなければならないことを学べた。

### ③ 総合的な感想

「実習前と実習後」を観点とする感想
<p>実習前は、授業の内容と発問・予想される児童の発言をいくつか考えておくと、比較的スムーズに授業を流すことができた。しかし、対象が児童になると、予測できないことが起こると気づくことができた。例えば、2人組で行う活動を計画していても、誰かが欠席するかもしれない。その場合にはどうするかなど、臨機応変に考える能力が必要不可欠だと、改めて感じた。私は優柔不断なところがある。そのため、臨機応変な判断力を養うためにはどうしていけばよいのかを自分なりに調べたり、実践したりしていきたい。</p> <p>また、実習を通して、子どもというよりも「人と関わっている仕事」だと再認識した。当たり前ではあるが、一人一人性格も家庭環境も特質も違う子どもたちが1つの学校で生活をともにしているからこそ、様々なことが起こった。実習中、どう関わればよいか迷うこともあったが、多くの先生が「毎日悩みながら、子どもたちとの関わり方を模索しています」と話して下さった。改めて、マニュアルがある仕事ではないのだということを実感した。</p>

## ● 報 告

## 公立学校教員採用支援の取組

## 教職支援部門

本年度は教員採用試験の早期化・複線化が本格的に始まった1年でした。年度をまたぎながら全国的な傾向や各自治体の取組が明らかになってきましたが、その中身は今後も流動的といえます。早期化・複線化が教員志望者の増加（減少傾向の歯止め）につながっているとは言えないからです。目論見が大きく外れた自治体もあり、今後の検証が待たれるところです。

## 【本年度の実績】

今年度の本学の状況は、右表のとおりです。受験した4年生231名、合格数160名、どちらも過去最高でした。多くの他大学にあるような志望者の減少傾向は今のところ見られません。

既卒者を含めた自治体別の状況は以下のような状況です。

		小	中・義	高・特	計	
2024年度	受験者数	172 男146 女26 心4 心4	50 男19 女31 心6 心2 法2	高7 心3 心2 法1	特2	231
	一次合格	157 男133 女24 心9 心9	26 男11 女15 心1 心1	高3 心1 心1 法1	特1	187
正規採用	二次合格	140 男114 女26 心4 心4	17 男7 女10 心7	高2 心1 心1	特1	160
臨採登録		男30	男17 女8 心5 心5	高2 心1 心1	特1	65
		任用これから				

新卒：栃木県68(小60中体2中英5特1)／茨城県22(小19中英2高公1)／福島県21(小17中体4)／埼玉県9(小)／神奈川県5(小)／川崎市9(小8中英1)／新潟県6(小)／新潟市1(小)／東京都5(小)／山形県3(小2中英1)／宮城県4(小3中英1)／群馬県1(高商)／山梨県1(小)／長野県1(中体)／秋田県1(小)／青森県1(小)／和歌山県1(小)／沖縄県1(小)

既卒：栃木県39(小20中社3中英5中体9特2)／福島県14(小8中不6)／埼玉県10(小8特2)／茨城県7(小4中英2特1)／群馬県4(小3中体1)／千葉県3(小1中社1特1)／新潟県6(小4中体1中英1)／新潟市1(小)／東京都2(小)／神奈川県2(小)／横浜市1(特)／山梨県1(小)／静岡県1(小)／宮城県1(小)／仙台市1(小)／青森県1(小)／札幌市1(小)／和歌山県1(小)／徳島県1(高体) □ 非公表／山形県 愛知県 石川県 福岡市

また、12月末までに把握できた3年次の受験数は121（うち合格68（一次の一部または全部合格64および二次まで合格4））でした。これに4年次での受験予定者（再挑戦と初挑戦）が100名程度加わる見込みなので、本学では、次年度も今年度と同程度の受験者数になる見込みです。

## 【本年度の支援内容】

試験が年度や学年をまたいで長期間に渡ったり、自治体によって内容や方法が異なったりと、学生にとって教採への向き合い方に幅ができたことは事実です。これをどうとらえて活かせるか、学生個々が自身の進路にどう向き合って選択・準備・対策を進めていくか、今まで以上に求められます。そのための情報収集力と活用力、計画力、実行力が問われます。学生の「自己決定・自己責任」を促す進路支援を通して、社会へ出ていく心構えや態度を養いたいと考えます。

そのため、本年度も以下のような取組を実施しました。

- ①全体ガイダンス 12月（先輩の話）／1月（年度始め新4新3年生向け）／4月（出願）／5月（直前）／10月（臨採登録）
- ②セミナー 通年 一般教養 教職教養 専門教養 作文 面接 討論 場面指導 模擬授業 実技
- ③学内説明会 栃木県教委 神奈川県教委 川崎市教委 福島県教委 茨城県教委 群馬県教委  
その他個別参加説明会（対面・リモート） 山形県 岩手県
- ④個別の進路相談など
- ⑤4月から教壇に立つ学生のための事前研修「はばたけ先生プロジェクト」

## 【次年度に向けて】

本学では幸いにも教員志望者は減少していません。スクールサポートなどのボランティアや教育実習などの現場での体験、日々の教職課程の学修などを通して「教員になる」という夢が、明確な目標へと変わっていく学生が多いようです。やる気のある若者が、学校現場の仕事に「就いて」「精一杯」やれることこそが真の『教育改革』につながっていくと信じて、今後も学生支援を継続していきます。

## ● 報 告

## 教職課程の自己点検・評価の取組

## 教育課程開発部門

教育職員免許法施行規則により、教職課程の自己点検・評価を行うことが定められています。本学でも、教職支援センター教育課程開発部門を中心に、令和4年度から教職課程の自己点検・評価を実施してきました。

## 【本年度の実施状況】

本年度の教職課程の自己点検・評価の実施方法は以下のとおりです。

- ・ 依頼対象：教員養成に関わる全教員（教育学部専任教員、経営学部・法学部 教職科目担当教員）
- ・ 点検形式：全国私立教職課程協会作成「教職課程 自己点検・評価基準」を参照して作成した本学の点検内容（3つの基準領域、6つの基準項目に基づく31観点）に基づき実施。観点は3段階判定基準のチェックリスト形式、項目はWeb入力方式。

昨年度からの変更点は、チェックリスト項目の微修正とMicrosoft Formsを利用したWeb入力方式にしたことです。Web入力方式に変更したことにより、回答の入力や集計が簡便（user-friendly）になりました。また、結果の取りまとめについても、Google社が提供しているAIツール「NotebookLM」（Gemini 1.5Pro）を活用し、自由記述回答を要約、整理するなど、効率的に作業を進めることができました。その結果、以下のような結果の取りまとめ作業が当初の予定よりも大幅に進展し、11～12月開催の各学部教授会にて教職課程の自己点検・評価チェックリストの実施結果を報告することができました。

(1) 基準領域1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み  
1)ーア【基準項目1ー1】教職課程教育に対する目的・目標の共有 の集計結果

自己評価の観点	判定基準		
	A	B	C
① 教職員が教職課程の目的・目標を共有し、計画的に実施している。	2 (3%)	63(94%)	2(3%)
② 教職課程教育を通して育まれるべき学修成果の具体的に提示している。	2 (3%)	65(97%)	0(0%)
③ 教職課程教育の目的・目標と共に目指す教師像を学生へ周知している。	3 (4%)	62(93%)	2(3%)

1)ーイ【基準項目1ー1】 自由記述の回答

① 教職員が教職課程の目的・目標を共有し、計画的に実施している。
【特筆すべき点】
○ スクールサポートやインターンシップを導入しているため
【改善点】
● 大学 HP 上で教職課程の目標が5つ示されていますが、時代にあわせた目標に改善してい

## 【次年度に向けて】

教職課程の自己点検・評価において大切なことは、「チェックリストを実施しただけ」に終わらず、結果に基づいて教職課程をより良いものへと改善していくことです。来年度は、本年度の結果に基づき、関係委員会等のメンバーと情報交換・協議する以下のような「教職課程の自己点検・評価の結果に基づく教職課程の改善のための座談会」を開催する予定です。このような取組を通して今後も、本学教職課程に携わる教職員一人一人が当事者意識をもって、改善方策の検討、実施につなげてきたいと考えています。

名 称：白鷗大学教職課程PLUS ULTRA座談会

参加者：教職支援センター、教職等課程委員会（各実習委員会、介護等体験作業部会）、教務委員会、FD委員会、SD委員会、自己点検・評価委員会、他専攻免許委員会、教員採用支援部会、学校インターンシップ支援部会の委員長・部会長等

内 容：令和6（2024）年度実施の教職課程の自己点検・評価チェックリストの結果に基づいて、関係委員会・部会等のメンバーと特筆すべき取組や改善方策について意見交換を行う。

## ● 報 告

## 学び続ける教師のための教員研修リレー講座

## 教育課程開発部門

近年の学校や教職員を取り巻く環境は厳しいものとなり、現場の先生方には、さまざまな課題に対する早急な対応が求められています。そこで、本学を含む大学教員や専門家の方々が、それぞれの研究をもとに、現代的な課題についてわかりやすく語りかける講座を開催することで、皆様に現代的学校教育課題を解決できる資質・能力を身につけていただきたいと考え、「学び続ける教師のための教員研修リレー講座」を開催しています。

## 【本年度の実施状況】

以下のような内容で実施しました。昨年度と同様に、講座の内容に関しては概ね好評であり、役割は果たせていたと思われます。ただし、1講座あたりの参加人数は約43名と減少していることから改善を図る必要があると考えます。

## ・実施内容

講座日	担当/所属/専門分野	内 容
第1回講座 6月8日(土)	〈東京学芸大学〉 佐々木 幸 寿 教 授/教育行政	学校における法規の活用 —いじめ法など学校法・判例の動向と法的実践—
第2回講座 7月13日(土)	〈白鷗大学〉 齋 藤 正 憲 准教授/文化人類学	これだけは知っておきたい！文化人類学 —琉球シャーマニズムのフィールドから—
第3回講座 8月10日(土)	〈白鷗大学〉 向 井 正 太 准教授/応用言語学	異文化理解・異文化受容 —現在教職課程で学生は何を学んでいるか—
第4回講座 9月21日(土)	〈日本大学〉 田 中 謙 准教授/障害児教育	通常の学級における特別支援教育と保護者支援
第5回講座 10月5日(土)	〈群馬大学〉 吉 田 浩 之 教 授/生徒指導	いじめの理解と対応 —法・通知・判例に基づく最新動向—
第6回講座 11月9日(土)	〈奈良教育大学〉 石 井 俊 行 教 授/理科教育	子どもの理解を深める授業づくりのすすめ

・後援 栃木県教育委員会

・参加者の状況（6回合計）

参加者数/260名（対面 192名 リモート 127名）

参加者の所属等/学校関係 73%（小学校 54%、中学校 13%、高等学校 6%）

行政関係 6%、学生 11%

講演に関する感想/満足 67%、やや満足 19%、普通 12%

## 【次年度に向けて】

県内外の先生方や卒業生・在校生に対する周知方法について検討することともに、講座の内容について、本年度の各回の感想や参加者からの希望などを踏まえて期待に応えられるようなものとしたいと考え、以下のような計画としています。

会場や時間、参加申し込み方法は、本学教職支援センター HPでお知らせします。

## 2025 現代的学校教育課題解決シリーズ日程

### 学び続ける教師のための教員研修リレー講座

講座日	担当/所属/専門分野	内容
第1回講座 6月14日(土)	佐々木 幸 寿 先生 東京学芸大学<学校法>	学校における最新法規の活用 ー リーガルマインドと危機管理 ー
第2回講座 8月2日(土)	瀬野尾 千 恵 先生 元横浜市教育委員会指導主事 元横浜市立いちよう小学校長 元デュッセルドルフ日本人学校長 <多文化共生> 向 井 正 太 先生 白鷗大学 准教授<応用言語学>	多文化共生の学校づくり ー外国人集住地区・横浜市立いちよう小学校 での取り組みを振り返るー
第3回講座 8月23日(土)	金 井 正 先生 白鷗大学 教授<教育学・教師論>	人生を前向きに生きる力 ー7つのキャリアUPー
第4回講座 9月27日(土)	田 中 謙 先生 日本大学 准教授<特別ニーズ教育>	子どものキャリアを見据えた 特別支援教育と保護者支援
第5回講座 10月11日(土)	吉 田 浩 之 先生 群馬大学 教授<生徒指導>	いじめ問題の理解と対応 ー法、ガイドライン、事例等に基づく最新動向ー
第6回講座 11月8日(土)	小 川 博 士 先生 白鷗大学 准教授 <理科教育学・STEM/STEAM 教育>	STEM/STEAM教育って何？ ーこれからの時代に必要な資質・能力の育成に向けてー

## 白鷗大学 教職支援センターニュース第3号

発行日：令和7（2025）年3月

発行所：白鷗大学教職支援センター

〒323-8585 栃木県小山市大行寺1117 FAX 0285-22-0800

E-mail：kyoshoku-center@ad.hakuoh.ac.jp